

地域の皆様と川島ロイヤル・ワム・タウンを結ぶ広報誌

# ふれ愛

NO.  
129  
2025.4月号

<https://www.loyal-wam-town.jp/>

「外壁工事後の病院」



Contents

## ボランティアイベント

ロイヤルケアホーム川島

## 節分イベント「鬼は外、福は内」

介護老人保健施設 平成の森

## リハビリテーション部 季節の作品作り

平成の森・川島病院

## 季節のイベント、バレンタインデー

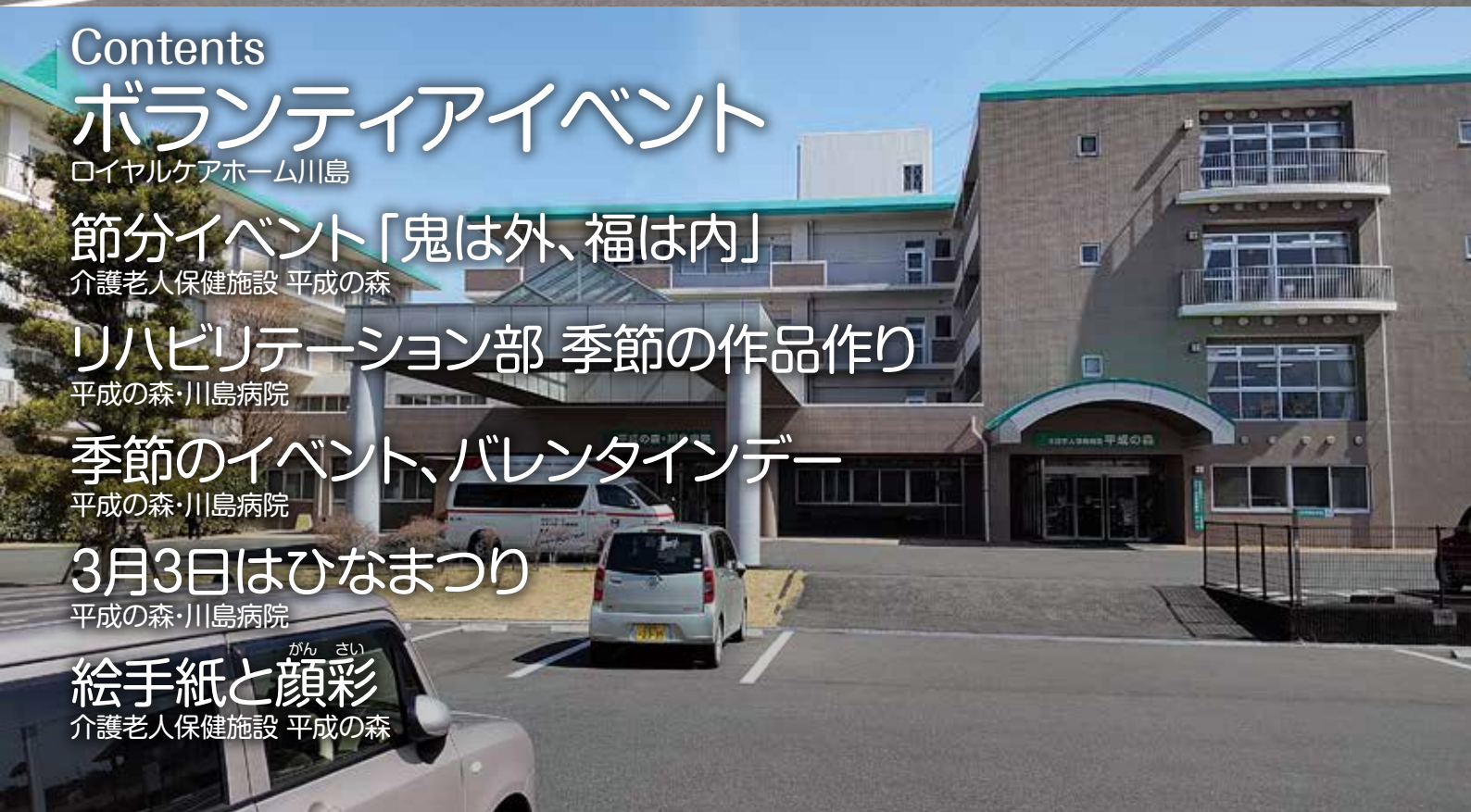
平成の森・川島病院

## 3月3日はひなまつり

平成の森・川島病院

## 絵手紙と顔彩

がん さい  
介護老人保健施設 平成の森





ロイヤルケアホーム川島では、2月1日、ボランティアイベントが行われました。今回のボランティアゲストは、花咲徳栄高等学校 和太鼓同好会の1年生と2年生9名に来ていただきました。お知らせのポスターを掲示すると、ご入居者のお孫さんやひ孫さん世代の学生さんが来てくれると、とても楽しみにされ、観に行きたいと多くの声を頂いていました。

当日は、ご入居者の半数以上が観に出て来られました。ご入居者のご家族も一緒に観覧され、会場は観覧者でいっぱいでした。男の子の学生さんだけでなく、女の子の学生さんも大きく腕を振り上げ全身を使って、力強い演奏をしてくださいました。大太鼓・中太鼓・小太鼓の身体に響く迫力ある演奏に拍手喝采でした。学生さんの演奏に、胸を打たれ涙を浮かべて「若いていいわね」「元気をもらった」「一生懸命練習してくれてたのが、嬉しい」「また来てくれると嬉しいな」と、とても喜ばれていました。また、一緒に観られていたご家族からも、「演奏をみている父の目が力強い目になっていき、嬉しかったです」という言葉も頂戴致しました。

イベント後、数日間ご入居者からは、和太鼓イベントの話で持ち切りでした。今後も、皆様の笑顔が見られるようなイベントを企画していきたいと思えます。

この度ご協力いただきました、花咲徳栄高等学校 和太鼓同好会の顧問の先生・学生様にこの場を借りて、改めて感謝いたします。ありがとうございました。

相談員 松浦 法子

## 節分イベント「鬼は外、福は内」

介護老人保健施設 平成の森

通所リハビリテーションでは、2月1日に節分イベントを行いました。節分は「1年間健康に過ごせるように」という願いを込めて「悪いもの」を追い出す行事とされています。

節分、豆まきの意味や由来をクイズ形式で学びながら、赤鬼、青鬼に扮した職員に向かって豆まき（紅白の玉）を行いました。迫力のある鬼を見て興奮した様子で楽しみながら豆まきを行っていました。「昔はよくやったけどね」「懐かしい」「病気という鬼を追い払いたい」「健康に過ごしたい」などそれぞれが邪気を払い、1年の無病息災を祈願できたようでした。

今年も季節に合わせた行事やイベントを提供していきたいと思えます。

看護・介護部 桜井 知代





平成の森・川島病院のリハビリテーション部では、月のイベントに合わせた作品作りを毎月患者様に提供し、リハビリ室の壁に作品を飾っています。3月といえばひな祭りですね！雛人形の飾りつけは、一般的には「豆まきが終わった立春（2月4日）～2月24日頃」に行くと良いとされています。その中でも、雨水の日に飾りつけを行うと、良縁が期待できるという一説があるそうです。雨水とは二十四節気のひとつで「雪が雨に変わって降り注ぎ、積もった雪も解けて水になる頃」のことで、雪解けて川の水が豊かになるため良縁に恵まれると言われていたとのことです。今年は2月18日だそうです。そのため、2月10日～17日に個々が作成した作品を2月18日～3月中旬までの間に飾っておき、とても賑やかな雰囲気になりました。今回は、貼り付け作業、おはながみを広げる作業を中心に行って頂きました。特に皆様が集中して行っていた作業はおはながみを広げる作業です！作業中は、「バランス良く貼るのって結構難しいね♪」、「顔をイケメンに描かなくちゃ♡」などの声がありました。おはながみの特徴として紙が薄く破れやすいことがあるため手の巧緻性や集中力を必要とします。手先を使うことや、様々なことを考えながら紙を広げる、貼る作業は、脳への刺激により、認知症予防や、脳梗塞のリハビリに効果が期待できます。簡単ではない箇所もありますが完成した時に達成感を味わうことができていました。また、作業に難しさがある場合は、スタッフが手伝い、その人に合わせて難易度を変更しながら行いました。作業中は、ひな祭りの思い出などを話しながら楽しく実施することができました。今年度もスタッフ同士で新しいアイデアを出し合いながら皆様を楽しめるような作品作りを提供できたらと思います。

リハビリテーション部 立道

## 季節のイベント、バレンタインデー

2月14日のバレンタインデーには、特別な昼食メニューとしてハートのハンバーグ、エビピラフ、フルーツポンチを提供しました。見た目にも華やかで、患者様に楽しいひとときを過ごしていただけたようです。また、おやつにはティラミスとチョコプリンをお楽しみいただき、患者様に大変喜ばれました。季節感あふれるお食事を通じて、普段の食事に新たな彩りを添えることができました。また、バレンタインならではの温かい雰囲気の中、心も体も満たされた一日となりました。これからも季節のイベントを大切にしながら、患者様に喜んでいただける食事をお届けしてまいります。



栄養科 野島 風我

## 3月3日はひなまつり

3月3日はひなまつりということで、昼食時に桜ちらし寿司を提供しました。酢飯の上に海老や錦糸卵、絹さやなどを盛り付け、仕上げにさくらでんぶと刻みのりをちらし、見た目も華やかな仕上がりになりました。ペースト食も色とりどりの食材を切ったり型を抜いたりして盛り付けました。年に数回の行事食ということもあり、普段よりも食事が進んだ患者様もいらっしゃったようです。また、おやつにはひなまんじゅうと菱形三食ゼリーを提供し、ひなまつり気分を味わっていただけたかと思います。入院生活を送るうえで食事は楽しみの一つという声が多く聞かれるため、今後も患者様の声にこたえていければと思います。



栄養科 尾形 沙希



通所リハビリのレク活動で行っている絵手紙は「顔彩」で色をつけています。

「顔彩」とは、すでに自然色に配合されている水彩絵の具です。絵の具を混ぜて思いの色を作るのが大変、という話はよく聞きます。しかし顔彩はその手間がいりません。使用している24色の配色も野菜や草木、風景の中にある自然色が主です。しかし今回のテーマであるお雛様の着物の柄はきらびやかで、原色に近く、自然色からは遠い色なので、イメージしている色が出せないというような声があがりました。心配ありません！原色絵の具を顔彩に少し混ぜると色の変化が増えます。お雛様や着物など身近で愛着あるものにこそ、こだわりを持って創造したいですね。このこだわりが、思考の力を刺激する至高の脳トレになると考えています。

介護福祉士 吉田 将輝

編集後記 ホホワイトデーのお話し。

ホワイトデーの起源については諸説ありますが、1977年に老舗の和菓子屋さんが、女性雑誌の投稿をヒントに「マシュマロデー」として発案したことと、1978年に全国飴菓子工業協同組合が、バレンタインデーのひと月後の3月14日を、「キャンディを贈る日」として制定したことが最初になるそうです。その後1980年に初めて東京銀座の百貨店で、「ホワイトデー」と銘打ったマシュマロやキャンディを売るキャンペーンイベントが行われました。「ホワイトデー」という名称は、純潔なイメージから命名されたということです。つまりホワイトデーは日本で生まれた習慣です。日本人がバレンタインデーを女性から男性への愛の告白の日としているために、そのお礼が一般的になったとも言えます。そもそも海外では愛の告白にお礼をするという発想自体が考えられないとか。文化の違いですね。看護・介護科 吉野 幸男

川島ロイヤル・ワム・タウン



平成の森・川島病院	電話 049 (297) 2811
ロイヤルケアホーム川島(サービス付き高齢者向け住宅)	電話 049 (299) 0880
訪問看護ステーション 平成の森	電話 049 (297) 8331
介護老人保健施設 平成の森	電話 049 (297) 8808
居宅介護支援事業所 きすな	電話 049 (297) 8797
川島クリニック	電話 049 (297) 8783